

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○公益社団法人農業農村工学会第48回定時総会の報告	90
○平成27年度名誉会員の推挙について	91
○農業農村工学会代議員選挙結果について	91
○平成28年度農業農村工学会賞候補の推薦について(再) 締切 10月31日	91
○第39回「水の週間」水のワークショップ・展示会について(第2報) 8月12~14日開催	92
○土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「水路工」の発行について(再)	93
○平成27年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について(再) 申請締切 9月11日	93
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	94
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	94
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	94
○平成28年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9月30日	95
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い	96
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2015年1月から2017年12月までの編集事務局(投稿先)のお知らせ	97
○農業農村工学北陸コンソーシアム第1回技術研修会の開催について(第1報) 参加申込締切 9月10日	97
○平成27年度東北支部総会・第58回東北支部研究発表会ならびに第48回東北支部研修会・ 第38回地方講習会の開催について(第2報) 発表原稿締切 9月14日	98
○第66回関東支部大会講演会の開催について(第2報) 講演申込締切 7月31日	99
○第70回中国四国支部講演会ならびに第39回地方講習会の開催について(第2報) 講演原稿・参加申込締切 8月21日	100
○平成27年度九州沖縄支部大会(第96回講演会・講習会・シンポジウム・研修会・交流会・現地見学会) の開催について(第2報) 参加申込締切 8月28日	101
○農村計画研究部会第37回現地研修集会の開催について 参加申込締切 9月4日	103
○第50回畑地かんがい研究集会の開催について(第1報) 10月22, 23日開催	104
○材料施工研究部会・農村道路研究部会 研究集会・現地研修会の共同開催について(第1報) 発表申込締切 9月4日	105
○農地保全研究部会第36回研究集会の開催について(第1報) 11月12, 13日開催	105
○第24回微粒化シンポジウムの開催について 11月17, 18日開催	106
農業農村工学会論文集内容紹介	107
学会記事	109

### 第83巻第8号予定

展望：上野裕士

小特集：放射能汚染を受けた地域の農業生産基盤やコミュニティの現状と対策(仮)

- ①ため池等農業水利施設の放射能汚染の実態と対策：柵木 環ほか
- ②ため池に蓄積した放射性物質の対策技術実証について：野内芳彦ほか
- ③大柿ダムの放射性セシウム対策と農業復興支援の取組み：高橋 寛ほか
- ④福島県飯館村における農地除染対策実証試験圃場の現状：木村賢人ほか
- ⑤原子力災害避難者の帰村に向けた課題：服部俊宏

技術レポート

- 北海道支部：真狩地区における「教育支援パートナーシップ」の取組み：石岡浩一ほか  
 東北支部：砂丘地の畑地帯における暗渠排水の施工事例：齊藤有紀ほか  
 関東支部：橋梁長寿命化における樹脂注入併用型下面増厚工法の施工事例：齋藤 豊ほか  
 京都支部：鎧沓排水機場を例とした排水機場の更新整備計画の検討事例：宮本博文ほか  
 中国四国支部：鳥獣侵入防止施設の直営施工事例：横内春夫ほか  
 九州沖縄支部：漏水ため池のグラウト工法による改修：濱田智子

小講座：吉田修一郎

私のビジョン：西脇淳子

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成27年8月12～14日	農業用水展示実行委員会	第39回「水の週間」水のワークショップ・展示会	いのちをむす水の恵み(仮)	東京都	83巻6,7号
平成27年9月1～4日	大会運営委員会	平成27年度農業農村工学会大会講演会 ⓑ	—	岡山市	82巻12号 83巻1,4号
平成27年9月10日	農村計画研究部会	第37回現地研修集会 ⓑ	農山村振興におけるさまざまな立場の人の参画と協働	相模原市 和東町	83巻7号
平成27年9月25日	京都支部	農業農村工学北陸コンソーシアム第1回技術研修会 ⓑ	農業用ダムの建設にみる農業農村工学技術の現在と今後の展開	柏崎市	83巻7号
平成27年10月7,8日	中国四国支部	第70回支部講演会・第39回地方講習会 ⓑ	—	広島市	83巻6,7号
平成27年10月22日	北海道支部	第64回支部研究発表会 ⓑ	—	札幌市	—
平成27年10月22,23日	畑地整備研究部会	第50回畑地かんがい研究集会 ⓑ	農産物の高付加価値化と畑地かんがい	鳥取市 ほか	83巻7号
平成27年10月26日	関東支部	第66回支部大会講演会 ⓑ	—	つくば市	83巻6,7号
平成27年10月26,27日	東北支部	平成27年度総会・第58回支部研究発表会・第48回支部研修会・第38回地方講習会 ⓑ	—	福島市	83巻6,7号
平成27年10月28～30日	九州沖縄支部	第96回講演会・講習会・シンポジウム・研修会・交流会・現地見学会 ⓑ	—	那覇市 ほか	83巻4,7号
平成27年11月5,6日	材料施工研究部会 農村道路研究部会	研究集会・現地研修会 ⓑ	農道の長寿命化に向けた保全対策について	富山市 ほか	83巻7号
平成27年11月12,13日	農地保全研究部会	第36回研究集会 ⓑ	農地保全・活用の現状と課題(仮)	三島市 ほか	83巻7号
平成27年11月19,20日	京都支部	第72回支部研究発表会 ⓑ	—	大津市	83巻4,6号
平成27年11月26日	北海道支部	第38回研修会または第35回シンポジウム ⓑ	—	札幌市	—

## 公益社団法人農業農村工学会第48回定時総会の報告

- 日時 平成27年5月28日(木) 14:00～14:51
- 場所 農業土木会館2階会議室
- 代議員現在数及び定足数 現在数105名 定足数53名
- 出席代議員数 89名(内、出席6名、書面により議決権を行使した代議員55名、委任状により議決権を代理行使した代議員28名)
- 定足数の確認等  
総務部長が、定款第21条に基づき定足数の充足による本定時総会の成立を確認した。
- 出席役員  
渡邊紹裕会長、林田直樹副会長、  
小前隆美専務理事、北辻政文理事、  
荻野寿一監事、長利 洋監事
- 議長の選出  
渡邊会長が仮議長となり、山本徳司代議員を全員一致で議長に選出した。
- 議事録署名人の選出  
議長が議事録署名人2名の選出について諮ったところ、松浦良和、湯浅真介の両代議員を全員一致で選出した。

## 9. 議事

## 決議事項

- 議案—1 平成26年度事業報告  
専務理事から同議案について説明があり、事業計画に掲げた事項が遂行された実績を確認し、審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。
- 議案—2 平成26年度決算  
専務理事から同議案について、財務諸表をもとに公1調査研究等事業会計、公2技術推進事業会計及び法人会計の説明があった。この際、長利 洋監事から平成26年度事業報告及び決算についてその内容を監査した結果、適正正確であるとの報告があった。審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。
- 議案—3 名誉会員の推挙  
専務理事から同議案について、20名の方の名誉会員推挙の説明があった。  
審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。

## 報告事項

- 報告事項—1 平成27年度事業計画について

専務理事から平成 27 年度事業計画について説明があった。

専務理事から平成 27 年度予算について説明があった。

(2) 報告事項一 平成 27 年度予算について

議長は、以上をもって議案の審議等を終了したので、14 時 51 分議事の終了を宣言した。

### 平成 27 年度名誉会員の推挙について

「農業農村工学会名誉会員の推薦に関する内規」に則って第 236 回理事会で推薦された次の 20 名の正会員（敬称略）の皆様が第 48 回定時総会の決議により名誉会員に推挙されました。これにより名誉会員の現在数は、260 名となりました。

木村 省三、木村 直、小池 啓、小出 剛  
小松原明範、菅原 恒雄、杉本修一郎、瀬口 昌洋  
高橋 民和、高橋 一、月岡 存、西山 壯一  
林 靖太、増井 久、横澤 誠、和田 温之

有川 通世、金澤 作藏、城所 喜文、宜保 清一

### 農業農村工学会代議員選挙結果について

公益社団法人 農業農村工学会 会員各位

公益社団法人 農業農村工学会  
会長 渡邊 紹裕

平成 27 年 5 月 29 日に実施した代議員選挙の結果、下記のとおり代議員に選出されたので、代議員選挙規程第 11 条第 3 項の規定によりお知らせする。

記

公益社団法人 農業農村工学会 代議員名簿  
(任期：平成 27 年 5 月 29 日

～平成 29 年 5 月代議員選挙終了の日)

○所属支部：北海道支部

川端伸一郎、石黒 宗秀、大内 幸則、坂井 康宏、  
上月 良吾、加倉 廣幸、大西 秀典、堀井 健次、  
前山 啓二、明田川洪志

○所属支部：東北支部

藤崎 浩幸、丹治 肇、颯田 尚哉、高橋 順二、  
富樫 千之、安中 武幸、中西 憲雄、井田 充則、  
浅利 満、伊藤 千一、佐藤 雄功、菅原喜久男、  
佐藤 暢芳、高野 尚紀、松本 勉、須田 博行、  
櫻田 浩二

○所属支部：関東支部

室本 隆司、奥田 透、進藤金日子、山本 徳司、  
土居 邦弘、緒方 和之、石川 英一、福田 靖夫、  
村上 行正、大岡 早孝、杉野 宏、小寺 孝治、

杉山 文章、福嶋 一郎、田中 庫夫、松本智加良、  
糸賀 信之、吉田修一郎、小島 信彦、前田 滋哉、  
加藤 亮、鈴木 純、松岡 延浩、三原真智人、  
大澤 和敏、長坂 貞郎、足立 泰久、水見 洋、  
湯浅 真介

○所属支部：京都支部

鈴木 哲也、千家 正照、岩間 憲治、川島 茂人、  
工藤 庸介、田中 勉、加治佐隆光、渡辺 巧、  
下舞 寿郎、佐藤 勝彦、吉岡 敏幸、清水 俊久、  
大橋 雅樹、前川 久義、松宮 孝男、深谷 勝之、  
中根 俊樹、平野 繁、高坂 正規、伊藤 利夫、  
高橋 修、森脇 馨、菅谷 義寛、高瀬 光津、  
窪 豊則

○所属支部：中国四国支部

猪迫 耕二、喜多威知郎、西村 伸一、角道 弘文、  
佐藤 周之、田中 秀明、俵 俊一、高橋 裕司、  
堀田 忠弘、佐伯 良、阿武 良一、井筒 伸二、  
小山 輝己、菊池 洋之、松尾 祐輔

○所属支部：九州沖縄支部

山田 耕士、關 保昌、山口 武彦、前田 健次、  
小柳倫太郎、石井 敏、河野 善充、堀 洋一郎、  
仲村 剛、凌 祥之、長 裕幸、稲垣 仁根、  
肥山 浩樹、仲村渠 将、和田 憲二、木原 泰信

### 平成 28 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）

平成 28 年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切は、平成 27 年 10 月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照下さい。

平成 28 年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績		農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績			
賞の対象期間	平成 22 年 10 月から平成 27 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 5 年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	平成 24 年 10 月から平成 27 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	平成 24 年 10 月から平成 27 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	平成 26 年 10 月から平成 27 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 26 年 10 月から平成 27 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 25 年 10 月から平成 27 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 22 年 10 月から平成 27 年 9 月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織、団体			
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			正会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる業績	農業農村工学教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く紹介、あるいは研究分析した業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通して、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象期間	平成 17 年 10 月から平成 27 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 17 年 10 月から平成 27 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 25 年 10 月から平成 27 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 22 年 10 月から平成 27 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 22 年 10 月から平成 27 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 22 年 10 月から平成 27 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 25 年 10 月から平成 27 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 27 年度末に 65 歳以上に達している個人
賞の対象業績	一般の図書。ただし、ハンドブック・閲覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したもののみを対象とする。		本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建設物、維持保全管理活動等も対象とする。				農業農村工学に関連した作品を対象とする。	
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	平成 27 年 10 月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

第 39 回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第 2 報）

「水のワークショップ・展示会」は例年同様「水の週間」のイベントの一つとして行われます。

今年も昨年までと同様に、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、関係団体の協力を得て、農業用水分野として展示の準備を進めてきました。昨年と同様に東京国際フォーラムで開催される丸の内キッズジャンボリーのイベントとして出展します。

多くの方のご来場をお待ちしております。

1. 日 時 平成 27 年 8 月 12 日（水）～14 日（金）  
10：00～17：00
2. 場 所 東京国際フォーラム G 棟 701
3. 主 催 国土交通省、東京都、水の週間実行委員会
4. 全体テーマ 健全な水循環により、水の恵みを享受できる社会を目指して（仮）
5. 農業用水テーマ いのち育む水の恵み（仮）
6. 展示内容 学生によるワークショップ、iPad アプリによるゲーム、パネル展示、生き物の水槽など

## 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「水路工」の発行について（再）

この度、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「水路工」が平成 27 年 5 月 21 日に発行されました。

〈改定の要旨より抜粋〉

前回の設計基準再編に伴う全面改定から 11 年が経過し、この間の設計基準「水路工」をめぐる諸課題としては、(中略)「環境との調和への配慮」が土地改良事業の実施の際に求められていること、(中略)大規模地震に対応した耐震設計が求められていること、施設の長寿命化に対応する必要が生じていることなどが挙げられる。さらに、(中略)自然エネルギーの利活用に対する社会的要請が高まってきている。

このような状況を踏まえ、本基準の改定を行うこととしたものであり、主な改定事項は以下のとおりである。

- (1) 環境との調和に配慮した水路工の設計手法の追記
- (2) 液状化の検討・対策を含む耐震設計手法の充実
- (3) 限界状態設計法の記載
- (4) 保全技術（補修・補強）の充実
- (5) 小水力発電を検討する場合の留意事項の記載

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

### 1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「水路工」

価 格：3,500 円（消費税 8% 込、送料学会負担）

規 格：A4 判 約 870 ページ

改定年月：平成 26 年 3 月

### 2. 申込方法

#### I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

- ①郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入下さい。  
振替口座番号：00160-8-47993  
加入者：公益社団法人 農業農村工学会
- ②現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封下さい。
- ③代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail または FAX でお送り下さい。別途、代引手数料が必要です。

#### II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書を E-mail または FAX でお送り下さい。

### 3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社) 農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

## 平成 27 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再）

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度（原則 1 件 20 万円以内）です。

本年度の申請締切は平成 27 年 9 月 11 日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

### 「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グ

ループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。

3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
  - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
  - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が 2 つ以上あること。
5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」

は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

#### 「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成27年9月11日（金）

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

#### 必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名） (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

### 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

### 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

#### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

#### 2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

#### 3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

#### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌7月号掲載の問題は8月末日が解答期限）

#### 5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

#### 6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

### 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

#### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 83, 84 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
83 巻	8 号 放射能汚染を受けた地域の農業生産基盤やコミュニティの現状と対策 (仮)	公募終了
	9 号 農業農村整備事業における気候変動への適応 (仮)	公募終了
	10 号 農業水利施設のストックマネジメントの現状と今後 (仮)	公募終了
	11 号 水土の知を次の世代とともに (仮)	公募終了
	12 号 ため池の耐震性能診断と保全管理戦略 (仮)	8 月 10 日
84 巻	1 号 農作業安全と土地改良 (仮)	8 月 17 日
	2 号 狙い手への農地集積・集約化に向けた取組み (仮)	9 月 15 日
	3 号 農地と森の一体的な整備・管理の現状と課題 (仮)	10 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4  
 公益社団法人 農業農村工学会  
 農業農村工学会誌企画・編集委員会あて  
 TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494  
 E-mail : henshu@jsidre.or.jp

83 巻 12 号テーマ「ため池の耐震性能診断と保全管理戦略」(仮)

東日本大震災からの復興・復興に対応した新たな政策展開に資するため、平成 24 年 3 月に「土地改良長期計画」が閣議決定され、ため池などの農業水利施設の耐震強化の推進が位置づけられました。合わせて、同年 10 月には会計検査院による報告「公共土木施設等における地震・津波の実施状況等に関する会計検査の結果について」において、農業用施設の耐震整備による安全性確保やハザードマップ作成の重要性が指摘されました。このような状況を踏まえ、多くの地方公共団体で、これまでの老朽化および豪雨対策に加え、耐震対策を考慮に入れたため池の健全度評価が実施されるようになりました。農業用水の供給に占めるため池の割合やそこに期待される多面的機能の捉

え方は異なるものの、地方公共団体などが地域の特色をベースにして取り組んでいるため池の保全管理は、総体として、農業農村整備技術の進展に欠かせないものと位置づけられます。

本小特集では、このような背景を踏まえ、①老朽化対策、豪雨対策、耐震対策などに関わる健全度評価の取組みと補修・補強事例、②ため池には古くに建造されたものが多く、堤体および基礎の水理・力学的調査が重要となることから、これらの調査技術の適用事例または新たな開発技術とその展開の可能性、③耐震照査のための解析手法に関する技術検討成果と課題、あるいは④限られた予算の制約下での中長期的なため池の保全管理戦略構想、などに関わる報文を広く募集します。

84 巻 1 号テーマ「農作業安全と土地改良」(仮)

わが国では年間約 45,000 件もの農作業事故が発生し、毎年 350 名を超える人命が失われている。他産業では労働衛生環境の改善が徹底して進められ、2009 年における労災事故死者数は 1971 年の約 2 割に減少した。他方、農作業事故死はこの 40 年間ほとんど変わらず高位安定のまま推移している。こうした農作業事故を防止するため、注意喚起を促すパンフレットの作成と配布、また安全装置の開発と実装が積極的に展開されてきた。

ここで考えたい。これまで農業工学は、この問題にどのように対峙してきたのであろうか？ また農業工学の知見と技術を駆使すれば、農作業事故を削減・防止することができるのではないだろうか？ このような見地に立脚し、この小特集では、農作業安全をめぐる問題を土地改良事業の観点から考究した論考、作業基盤の観点から農作業事故の発生要因をひも解いた報文、農作業事故を防止するための取組みや工夫などに関する事例研究などを広く募集します。

平成 28 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 28 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の

農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大

切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずです。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

#### 記

#### 1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

#### 2. 対象巻号 学会誌第84巻（平成28年1～12月号）

#### 3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4サイズも含まれます）。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき20MB以下とし、形式はJPEGのみに限定します。

#### 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 5. 締切 夏季 平成27年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りません。

#### 6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

#### 7. 結果発表

学会誌第84巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成28年度全国大会会場でパネル展示します。

#### 8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

#### 9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

#### 10. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

#### 11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

#### 12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが1.247と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）

⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）

⑦ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）

⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）

⑨ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）

⑩ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

出版社：Springer-Japan社

発行スケジュール：年4回

購読料：正会員・名誉会員 12,343円

学生会員（院生含む）8,743円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先：農業農村工学会編集出版部 中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと  
2015年1月から2017年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2015年7月にVol.13, No.3が発行予定です。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社のSCIE（Science Citation Index Expanded）に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIEのIF（Impact Factor）が利用されており、本国際ジャーナルはIF=1.151（2015年版）と高い評価を得ております。

また、世界14カ国からEditor（23名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員でPWE誌の購読者に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2015年1月から2017年12月までの編集事務局は韓国です。  
投稿先：オンライン投稿（<http://pawe.edmgr.com/>）をご利用下さい。

**編集事務局**：Professor Dr. Jin-Yong CHOI  
Deputy Director General, Institute of Green-Bio Science and Technology  
Rural Water and Information Engineering Lab.  
Rural Systems Engineering Program, College of Agriculture and Life Sciences, Seoul National University  
1 Deahak-ro, Kwanak-gu, Seoul, Korea 151-742  
TEL：+82.2.880.4583 FAX：+82.2.873.2087  
E-mail：iamchoi@snu.ac.kr

**編集方針**：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。  
その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、

土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

**編集体制**

・Editor-in-Chief：Dr. Masaru MIZOGUCHI（Japan）  
Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

・Editors 14カ国から23名

・Editing Board 26名

・Chief Management Editors

**Dr. Jin-Yong CHOI**

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea

**Dr. Yoshiyuki SHINOBI**

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

・Managing Editors

**Dr. Haruhiko HORINO**

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

**Dr. Kazunari FUKUMURA**

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

**Dr. Yu-Pin LIN**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

**Dr. Ming-Daw SU**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

**出版社**：Springer-Japan社

**投稿資格**：筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

**投稿要領等**：<http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

農業農村工学北陸コンソーシアム第1回技術研修会の開催について（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業農村工学技術者の技術研鑽の場を提供し、斯界の技術継承・向上と技術者育成を図るとともに、その活動を通して広く農業農村工学分野の社会広報を推進することを目的に、「農業農村工学北陸コンソーシアム」を平成27年4月24日に設立しました。新潟大学農学部および石川県立大学生物資源環境学部の関連教員団の呼びかけと農業農村工学会京都支部の支援のも

と、北陸地域の民官学の技術者がメンバーとなり、新潟県や北陸地域に数多く動いている農業農村工学関連事業などを題材に、現地研修会や技術勉強会を開催し、われわれ技術者の自己研鑽を進め、斯界の技術継承・向上を図っていきたくと企画しています。

その活動の第1弾として、下記の技術研修会を開催すること

としました。農業農村工学分野に関わる多くの技術者の方々、これからこの分野で活躍していこうとする若手技術者と学生の方々より、多くのご参加をいただけるよう、ご案内いたします。

1. 主催 農業農村工学北陸コンソーシアム運営委員会  
農業農村工学会京都支部
2. テーマ 農業用ダムの建設にみる農業農村工学技術の現在と今後の展開
3. 日時 平成27年9月25日(金)9:00~16:00
4. 場所 新潟県柏崎市内  
(9:00 JR 柏崎駅集合, 午後 柏崎土地改良区  
(〒945-1342 柏崎市三和町 8-19))
5. プログラム  
午前(現地研修):北陸農政局市野新田ダム「ダムの立地と選定—地域の水需要と地形・地質制約—」  
午後(技術講義):  
1) フィルダムの建設と技術課題  
2) フィルダムの動的解析技術の現状と課題  
3) フィルダムの締固めと品質管理  
(注) 技術講義資料は事前に送付します。これを予習いただき、当日の技術講義のディスカッションに参加い

ただく予定です。

6. 募集人員 50名
7. 参加費および支払い方法  
・参加費:5,000円(学生は2,000円)  
・当日、現金でお支払い下さい。農業農村工学会京都支部長名による領収証をお渡します。
8. 参加申込み  
問合せ先あて、FAX または E-mail にて、お名前、所属・勤務先、連絡先住所、電話番号、E-mail アドレス、および農業農村工学会 CPD 個人登録者の方は CPD 登録者番号をご連絡下さい。締切を平成27年9月10日とさせていただきます。
9. 宿泊施設・航空券などの斡旋  
宿泊施設、航空券、鉄道券などは各位でお手配下さい。
10. 問合せ先  
農業農村工学北陸コンソーシアム事務局  
担当:鈴木哲也(新潟大学農学部准教授)  
〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050  
新潟大学農学部生産環境科学科  
TEL&FAX:025-262-7395  
E-mail:suzuki@agr.niigata-u.ac.jp

**平成27年度東北支部総会・第58回東北支部研究発表会ならびに  
第48回東北支部研修会・第38回地方講習会の開催について(第2報)**

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 開催日 平成27年10月26日(月), 27日(火)
2. 会場 コラッセふくしま  
〒960-8053 福島市三河南町1-20  
TEL:024-525-4089  
【会場までのアクセス方法】  
JR 福島駅西口から徒歩 約3分  
東北自動車道福島西 IC から車で約15分  
東北自動車道飯坂 IC から車で約15分  
※無料駐車場はございませんので、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。  
※コラッセふくしま有料駐車場(30分まで無料、以降30分ごとに100円)  
※近隣の民間有料駐車場(30分100~150円)
3. プログラム(案)  
〈第1日目〉10月26日(月)  
(1) 総会ならびに研究発表会  
9:00~9:30 受付  
9:30~10:15 支部総会  
10:15~10:45 支部賞授賞式  
10:45~11:00 休憩  
11:00~12:00 特別講演  
12:00~13:00 昼食・休憩  
13:00~17:00 第58回支部研究発表会
- (2) 情報交換会  
18:00~20:00 [会場:コラッセふくしま]
- 〈第2日目〉10月27日(火)  
(3) 支部研修会・地方講習会  
9:00~9:30 受付  
9:30~12:00 第48回支部研修会  
12:00~13:00 昼食・休憩  
13:00~15:30 第38回地方講習会  
※支部研修会および地方講習会の詳細は、本誌8月号に掲載予定の第3報を参照願います。
4. 研究発表の申込み  
平成27年度の全体的な運営については福島県が担当しますが、研究発表の受付け、プログラム編集は宮城大学が担当します。  
本報では、「研究発表」の申込みについてご案内し、「参加」申込み等は、本誌8月号に掲載予定の第3報においてご案内する予定です。  
(1) 研究発表の申込み・問合せ先  
〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立2-2-1  
宮城大学食産業学部環境システム学科  
神宮字または千葉まで  
TEL:022-245-2211(代)  
E-mail:chibak@myu.ac.jp

(2) 要領

研究発表要旨集原稿に投稿票を添えて、上記(1)の申込先にお申し込み下さい。なお、原稿はWordか一太郎ファイルでお送り下さい。

投稿票ファイルは、農業農村工学会東北支部のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/shibu/tohoku/>)からダウンロードして下さい。

また、研究発表要旨集原稿の書き方についても、農業農村工学会東北支部のホームページに掲載していますので、参照して下さい。

(3) 発表方法

発表時間は15分以内(発表12分、質疑3分)とします。また、発表の補助機材として、パソコン(OS:Windows、ソフト:MS-Power Point)とプロジェクターを用意します。

(4) 研究発表申込み受付期間

平成27年8月3日(月)～9月14日(月)(厳守)

5. 宿泊について

宿泊についての斡旋はいたしませんので、ご了承下さい。

第66回関東支部大会講演会の開催について(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催 (公社) 農業農村工学会関東支部

後援 農林水産省関東農政局、茨城県

2. 支部大会講演会

(1) 日時 平成27年10月26日(月) 10:30～17:00  
(受付 9:30～)

(2) 会場 つくば国際会議場  
〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3  
TEL: 029-861-0001  
<http://www.epochal.or.jp/>  
・受付 大会議室前  
・講演会 大会議室、中会議室、小会議室  
・講習会 大会議室  
・授賞式 大会議室

(3) 会場への案内  
つくばエクスプレス「つくば駅」より、徒歩10分。

3. 情報交換会

(1) 日時 平成27年10月26日(月) 18:00～20:00  
(2) 会場 オークラフロンティアホテルつくば  
アネックス「昴」  
TEL: 029-852-1112  
<http://www.okura-tsukuba.co.jp>

4. 参加申込方法

(1) 申込方法  
「第66回農業農村工学会関東支部大会申込書」に必要事項を記入し、所属機関ごとに取りまとめのうえ、E-mailまたはFAX、郵送にてお申し込み下さい。

(2) 申込期限 平成27年8月28日(金)

(3) 参加費  
・講演会、講習会 2,000円  
・情報交換会 5,000円  
(講演者および学生は3,000円)

(4) 昼食  
昼食を希望される方は、お弁当(1,000円)を用意いたしますので、参加申込みと同時に申し込み下さい。昼食

会場は大会議室を予定しています。

(5) 参加費等の納入方法

参加申込みと同時に全額前納して下さい。なお、キャンセル、変更については、9月30日以前の申出に限りまして、振込手数料等の実費を差引き返金いたします。それ以降のキャンセルにつきましては応じかねますので、ご了承のほどよろしく願いいたします。

【留意事項】

振込手数料は、各自にてご負担願います。

【振込先】

常陽銀行 県庁支店  
店番号: 033 口座番号: 普通 1303987  
口座名義: 農業農村工学会関東支部大会事務局  
代表 根本 力  
(ノウギョウノウソウコウガツカイカントウシブタイカイジムキョク ネモトチカラ)  
※振込元が申込書と照合できるように、氏名・所属の順で必ず記入願います。

(6) 申込先および問合せ先(事務局)  
〒310-8555 茨城県農村計画課農村総合計画G  
農業農村工学会関東支部大会事務局  
(担当: 大津, 若生, 祖父江)  
TEL: 029-301-4155 FAX: 029-301-4169  
E-mail: nnkantotaikai@pref.ibaraki.lg.jp

(7) 申込様式

申込様式(次ページ)は、茨城県農村計画課ホームページ上に掲載してありますので、ファイルをダウンロードしてご利用いただくことも可能です。

5. 一般講演発表者申込方法

(1) 申込方法  
農業農村工学会ホームページの支部のページ(<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>)の「支部講演会投稿票」の「支部講演会の投稿票について」に従って必要事項を記載し、4.(6)の事務局あてにメール送信して下さい。受領

第66回農業農村工学会関東支部大会参加申込書

所属		電話番号		
申込者氏名		FAX 番号		
E-mail				
所属所在地				
参加者名および参加費など				
ふりがな 氏名	参加費		昼食 ¥1,000 ○×を記載	計 金額を記入
	講演会等 ¥2,000 ○×を記載	情報交換会 (一般参加) ¥5,000 ○×を記載		
合計			¥	

確認はメールで行いますので、受領ハガキは不要です。

(2) 申込期限 平成27年7月31日(金)

- (3) 原稿締切 平成27年8月28日(金)
- (4) 原稿枚数 2枚または4枚
- (5) 申込先および問合せ先 4. (6) に同じ
- (6) 講演時間 質疑応答を含め15分程度
- (7) その他

幅広い分野からの応募を歓迎いたします。

一般講演者発表者の参加費(情報交換会費を除く)・昼食については無料です。

昼食(お弁当)および情報交換会参加の有無につきましては、後日確認させていただきます。

6. その他

- ・ 宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自での対応をお願いします。
- ・ 詳細は、茨城県農村計画課ホームページをご確認下さい。

第70回中国四国支部講演会ならびに第39回地方講習会の開催について(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日程

(1) 支部講演会

日時: 平成27年10月7日(水) 10:00~17:00

会場: 広島 YMCA 国際文化センター

本館 国際文化ホール

〒730-8523 広島市中区八丁堀 7-11

TEL: 082-227-6816

FAX: 082-227-3867

プログラム:

受付開始 9:30~

開会式 10:00~10:15 (本館 国際文化ホール)

支部表彰式 10:15~10:25 ( )

特別講演 10:40~12:00 ( )

「防災減災~ため池の耐震診断の取り組みと新たな締固め管理」

茨城大学農学部地域環境科学科教授 毛利栄征

<昼食 12:00~13:00>

一般講演 13:00~17:00

第1会場 本館 国際文化ホール

第2会場 本館 403号室

第3会場 本館 404号室

(2) 情報交換会

日時: 平成27年10月7日(水) 18:00~20:00

会場: 広島市内を予定

(3) 地方講習会

日時: 平成27年10月8日(木) 9:00~12:00

会場: 広島 YMCA 国際文化センター

(本館 国際文化ホール)

プログラム:

受付開始 8:50~

講習会 9:00~11:40

閉会式 11:45~12:00

2. 講演申込み

(1) 投稿・講演要領

1) 講演原稿

講演原稿は、図、表、写真などを合わせて1課題3ページ以内とします。

投稿者は、農業農村工学会ホームページの支部のページ (<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>) に掲載してある講演原稿の書き方に従って原稿を作成し、原稿をPDFにしたファイルと投稿票(前記支部のページからダウンロードできます)をメールにより下記(3)の投稿申込窓口までお送り下さい。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」として下さい。受領確認はメールでの返信で行います。なお、発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合がありますので、講演者(○印)の方は必ず連絡先メールアドレスをお書き下さい。

2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも1名は学会員であることが必要です。

3) 講演方法

個人発表とし、講演補助としてプロジェクター、パソコン、パワーポイントを準備します。

4) 講演時間

1課題につき15分程度です。

5) 講演要旨集

申込みがあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。

6) 参加申込み

講演者は、講演申込みとは別に参加申込みも行い、参加費をお支払い下さい。

7) 原稿の締切

平成 27 年 8 月 21 日 (金) 必着でお願いします。

(2) 優秀賞・研鑽賞・奨励賞の表彰条件

優秀賞・研鑽賞・奨励賞の受賞資格については、学会ホームページの支部のページ (<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>) に掲載していますので、事前にご確認下さい。

(3) 投稿申込窓口

愛媛大学農学部生物資源学科 小林範之  
〒790-8566 松山市樽味 3-5-7  
TEL&FAX : 089-946-9929  
E-mail : nkoba@agr.ehime-u.ac.jp

3. 参加申込み

(1) 参加申込書

参加申込みについては、以下の申込み様式に従い、所属機関ごとにとまとめてメールにより下記 (5) までお送り下さい。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会申込

【申込様式】

第 70 回農業農村工学会中国四国支部講演会ならびに  
第 39 回地方講習会参加申込書

所属機関名:								
所在地:(〒 - )								
連絡者名(ふりがな):								
電話番号:								
FAX 番号:								
E-mail アドレス:								
所属	氏名	ふりがな	講演希望	【10月7日】			【8日】	備考
				講演会参加費	昼食	情報交換会	地方講習会	
				一般: 2,000円 学生: 1,000円	一般: 1,000円 学生: 1,000円	一般: 5,000円 学生: 5,000円	一般: 2,000円 学生: 1,000円	
合計								

み]として下さい。なお、様式は学会ホームページの支部のページ (<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>) からダウンロードできます。

(2) 申込締切日 平成 27 年 8 月 21 日 (金)

(3) 参加費等

1) 講演会参加費【一般:2,000円, 学生:1,000円】  
※講演者をはじめ、講演会に参加される方はお支払い下さい。

2) 昼食代【一般:1,000円, 学生:1,000円】

3) 情報交換会【一般:5,000円, 学生:5,000円】

4) 地方講習会【一般:2,000円, 学生:1,000円】

(4) 参加費等の納入方法

原則として、参加申込みに併せて次の銀行口座に全額前納でお振込みをお願いします。振込手数料については、振込人負担をお願いします。

また、振込み元がわかるように、所属・氏名等は必ずご記入下さい。

なお、振込み後の参加費等の返金については、原則応じられませんのでご注意下さい。

【振込口座】

銀行名: 広島銀行 県庁支店  
店番号: 008 口座番号: 3059138  
名義人: 農業農村工学会中国四国支部広島県実行委員会  
事務局 会計担当 重森歩  
(ノウギョウノウソンコウガツカイチュウゴクシヨクシブヒロシマケンジッコウイインカイ)

(5) 問合せ先、参加申込窓口

※参加窓口と原稿提出窓口を別にしていますので、ご注意下さい。

○講演会・情報交換会・講習会申込窓口・問合せ先  
広島県農林水産局農業基盤課 小池・友瀧・重森  
〒730-8511 広島市中区基町 10-52  
TEL: 082-513-3650 FAX: 082-228-1301  
E-mail: nounouki@pref.hiroshima.lg.jp

(6) 宿泊案内

宿泊の斡旋・手配等はいりませんので、各自でのご対応をお願いいたします。

平成 27 年度九州沖縄支部大会 (第 96 回講演会・講習会・シンポジウム・研修会・交流会・現地見学会) の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日 時

平成 27 年 10 月 28 日 (水)

9:30~17:00 開会式・支部賞授賞式・講演会・講習会

平成 27 年 10 月 29 日 (木)

9:00~16:45 シンポジウム・研修会・講演会・講習会・

交流会

平成 27 年 10 月 30 日 (金)

9:00~16:00 現地見学会

(沖縄本島コース・宮古島コース)

2. 会場 (開会式・支部賞授賞式・講演会・講習会・シンポジ

ウム・研修会・交流会)  
ANA クラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー  
〒900-0021 沖縄県那覇市泉崎2-46 TEL:098-853-2111  
http://www.anacpokinawa.com  
モノレール県庁前駅または壺川駅徒歩10分

### 3. プログラム

- (1) 10月28日(水) 開会式・支部賞授賞式・講演会・講習会
- ① 9:00~9:30 受付
- ② 9:30~10:00 開会式(彩海の間A(2F))
- ③ 10:00~10:20 支部賞授賞式(彩海の間A)
- ④ 10:30~15:30 講演会【オーラルセッション(一般研究課題)】  
第1会場 彩海の間B(2F)  
第2会場 羽衣の間(2F)  
第3会場 金鶏の間(2F)  
第4会場 アイランドブリーズ(2F)
- ⑤ 13:00~14:00 ポスターセッション  
(彩海の間入口付近展示スペース)
- ⑥ 15:45~16:45 講習会(彩海の間A)  
計画基準「農業用水(畑)」
- ⑦ 16:45~17:00 ポスター賞授賞式  
(彩海の間入口付近展示スペース)
- ⑧ 18:00~20:00 情報交換会(彩海の間A)
- (2) 10月29日(木) シンポジウム・研修会・交流会・講習会・講演会
- ① 9:00~12:00 シンポジウム(彩海の間A)  
テーマ「九州・沖縄の農政改革に向けた農業農村整備の課題と展望」
- ② 13:00~14:00 研修会(彩海の間A)  
「沖縄の農業農村整備と地域づくり(仮称)」
- ③ 13:00~14:00 交流会(彩海の間B)
- ④ 14:15~15:30 講演会  
【オーラルセッション(先進的・萌芽的研究課題, 一般研究課題)】  
第1会場 彩海の間A  
第2会場 彩海の間B  
第3会場 羽衣の間  
第4会場 白鳳の間(2F)
- ⑤ 15:45~16:45 講習会(彩海の間A)  
設計指針「耐震設計」
- (3) 10月30日(金) 現地見学会
- ① 沖縄本島コース  
9:00 ANA クラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー  
正面玄関集合→15:00 那覇空港着→15:30 県庁前 解散

見学予定地: 慶座地下ダム, 県営ほ場整備地区, 平和記念資料館

### ② 宮古島コース

9:00 宮古空港到着ロビー集合→9:30 宮古島市役所前  
→16:00 宮古空港着 解散

見学予定地: 地下ダム建設現場, 地下ダム資料館, 県営ほ場整備地区

(※両コースとも参加人数が25名に満たない場合, 中止する場合がございますのでご了承下さい。現場状況等により, 見学地が変わることがあります。)

### 4. 参加費

	講演会	講習会	現地見学会	昼食(28日)	昼食(29日)	情報交換会
一般料金	6,000円	4,000円	3,000円	1,080円	1,080円	5,400円
学生料金	3,000円	2,000円	2,000円	1,080円	1,080円	5,400円

#### ※1 参加費内訳

講演会: 講演集代 6,000円(学生 3,000円)

講習会: テキスト代 4,000円(学生 2,000円)

現地見学会: 資料代 1,000円(学生 1,000円), バス代経費 2,000円(学生 1,000円)

#### ※2 シンポジウム, 研修会および交流会の参加費は無料です。

※3 学生への参加助成金を検討中です。次回の会告で詳細をお知らせします。

※4 現地見学会(30日)では, 昼食時に食堂等をご案内します。

### 5. 講演会(オーラル・ポスター)の投稿・発表方法

平成27年度支部大会の全体的な運営については大会運営事務局(沖縄県)が担当しますが, 講演会の申込受付とプログラム編集については支部事務局(琉球大学)が担当します。講演会には下記によりお申し込み下さい。また, オーラルセッションとポスターセッションの投稿方法は統一されています。なお, 原則として学生会員(学部生・研究生・大学院修士)はオーラルセッションではなく, ポスターセッションにお申し込み下さい。

#### (1) 投稿締切

平成27年8月31日(月) 厳守

#### (2) 投稿先

E-mail: zhunai@agr.u-ryukyuu.ac.jp

琉球大学農学部 仲村 将 TEL: 098-895-8780

#### (3) 投稿方法

「講演要旨(PDF形式)」と「講演会投稿票(MS-Excel形式)」の各ファイルを電子メールに添付してご投稿下さい。電子メールの件名を「2015九州沖縄支部大会」として下さい。講演要旨と講演会投稿票の作成には, 下記8.に示したURLからファイルをダウンロードしてご利用下さい。

#### (4) 講演要旨・講演会投稿票の書き方

「講演会投稿票・講演要旨の書き方および電子投稿要領」を下記8.に示したURLからダウンロードしてご参照下さい。なお, オーラルセッションでの発表について

は、「一般研究課題」と「先進的・萌芽的研究課題」のどちらを希望するかを投稿票にてお示し下さい。また、過去15年以内に価値ある業績等を通算3回以上口頭で発表した会員に授与する研鑽賞は自己申告制ですので、受賞対象者になると思われる方は講演会投稿票に必要事項を記入して申告して下さい。

(5) オーラルセッションの発表方法

1 課題当たりの発表時間は質問・交代時間を含めて10～15分程度です。発表用機材としてパソコン（OS：Windows、ソフト：MS-PowerPoint2013）とプロジェクターを大会運営事務局で用意します。OHP・スライド用機材を用意することができませんのでご了承下さい。

(6) ポスターセッションの発表方法

原則として学生会員（学部生・研究生・大学院修士）を対象に募集します。ポスター賞を若干名に授与します。事前のポスター送付は不要です。

① 用紙および枚数

1 課題当たり A0 版 1 枚以内

② ポスターの掲示

10月28日（水）正午までに発表者の責任で掲示用パネルにポスターを掲示して下さい。掲示用パネルのサイズは2.1m（高さ）×1.8m（幅）となる予定です。

6. 支部大会参加申込方法

(1) 参加申込み

参加申込書により所属ごとに取りまとめてお申し込み下さい。なお、講演会での発表希望者についても、参加申込みが必要です。参加申込書（MS-Excel形式）の作成には、下記8.に示したURLからファイルをダウンロードしてご利用下さい。

(2) 参加申込先

JTB コンベンションサポートセンター

（受付業務代行）

〒810-0072 福岡県福岡市中央区長浜 1-1-35

新 KBC ビル 6F

TEL：092-751-2102 FAX：092-751-4098

営業時間：平日 9：30～17：30

（土日・祝日のお申込みは翌営業日受付となります）

(3) 申込期限

平成 27 年 8 月 28 日（金）

なお、会場の都合により定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込み下さい。

(4) 参加費の納入

申込みを受け付けた後、(株) JTB 沖縄（受付業務代行：JTB コンベンションサポートセンター）より9月末以降に確認書・請求書を送付いたしますので、内容を確認のうえ、同封の請求書記載の期限までにお振り込み下さい。

なお、振込後の参加費等の返還には応じられませんので、ご注意下さい。

(5) 宿泊について

大会運営事務局では宿泊の斡旋・手配を行いませんので、ご了承下さい。

7. 事務局

農業農村工学会九州沖縄支部沖縄大会運営事務局

（事務局長：森 英勇）

沖縄県農林水産部 村づくり計画課：佐久本

農地農村整備課：瑞慶覧

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2

村づくり計画課 TEL：098-866-2263 FAX：098-869-0557

農地農村整備課 TEL：098-866-2285 FAX：098-866-2879

佐久本 E-mail：skmotohr@pref.okinawa.lg.jp

瑞慶覧 E-mail：zuckerayo@pref.okinawa.lg.jp

8. URL

農業農村工学会ホームページの支部のページ：

<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>

農村計画研究部会第 37 回現地研修集会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催 農業農村工学会農村計画研究部会
- 協賛 農村計画学会（予定）
- 後援 京都府、農林水産省近畿農政局（予定）
2. 日程 平成 27 年 9 月 10 日（木）
3. 場所 京都府相楽郡和束町（そうらくぐんわづかちょう）
4. テーマ 農山村振興におけるさまざまな立場の人の参画と協働～「茶源郷・和束」に学ぶコーディネーターの役割～
5. 趣旨 京都府相楽郡和束町では、地域の主たる産業である茶産業とそれらによって創られる景観を活用し、各種イベントやワーキ

ングホリデーの受入れ・農家民泊などの観光や農業体験を中心とした交流人口の拡大を図ってきました。そして今、町内の空き家を戦略的に活用し、新たな人材が定住できる地域づくり構想を作成しているところです。このような交流人口の拡大や地域産業振興において、人、もの、知恵、情報、資金を集め、コーディネートする役割を担ってきたのが「和束町雇用促進協議会」\*です。地域活性化を担う若い人材も育ってきており、新たな農産物栽培への取組み、豊富な森林資源の活用にも取り組もうとしています。また、現地研修集会で訪問する「和束茶カフェ」は、平成 25 年度都市農村共生・対流総合対策交付金【「食」を活用し観光と連携したグリーン・ツーリズム】の事業

の拠点でもあります。

参加者のみなさまには、京都府景観資産にも登録された美しい茶畑景観を体感しながら、農山村振興のため、どのようなコーディネートのもとで、どのような人が参画・協働してきたのか、そして、これからに向けてどのような戦略が進められているのかを知っていただきたいと思います。実践力ある人づくり、ものづくり、組織づくりのヒントを得られる機会になることでしょう。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

なお、この現地研修集会は農業農村工学会大会時に開催する討論集会（9月3日（木）岡山大学）と統一テーマで開催します。

※ 和東町雇用促進協議会は、平成18年、和東町・商工会・JA・NPOなどが参画して設立した任意団体です。民間企業出身者や新しいアイデアをもった若者が核となって、「茶源郷プロジェクト」（厚生労働省・平成24年度実践型地域雇用創造事業）を推進し、地域生産物の商品開発、観光ビジネス、人材育成などによる地域活性化を進めています。

## 6. プログラム

JR 京都駅（京都駅八条口 ホテル京阪京都前）9:00 集合、  
17:30 解散（予定）

石寺の茶畑景観、ふれあい工房てらす和豆香（昼食）、自由庵（会員制古民家、シェアハウスとしても宿泊利用も可能）、和東茶カフェなどの現場をめぐるとともに、和東町雇用促進協議会や各種取組みに参画している茶農家などの方々から直接お話をうかがいます。

## 7. 参加費用

7,000円（昼食代1,200円、保険代300円含む）  
（学生・大学院生は4,000円（同上））

## 8. 参加申込み

参加をご希望の方は、参加申込書ファイル（本学会ホームページからダウンロードして下さい）に所要事項をきれいに記入の上、運営事務局までE-mailに参加申込書ファイルを添付してお送り下さい。原則として団体ごとにまとめてお申し込みいただきますようご協力をお願いいたします。

(1) 申込期限 平成26年9月4日（金）

(2) 申込先

京都大学森里海連環学教育ユニット 担当：清水夏樹  
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学フィールド科学教育研究センター内

E-mail：natsuki@kais.kyoto-u.ac.jp

TEL：075-753-6426 FAX：075-753-2263

(3) 参加費の納入

参加申込票に記載している指定口座に、9月4日（金）までにお振り込み下さい。なお振込手数料は参加者のご負担をお願いいたします。

(4) 申込みの変更・取消し

9月4日（金）までに運営事務局までE-mailまたはFAXにてお申し出下さい。それ以降の取消しについては、参加費の返還ができませんので、あらかじめご了承下さい。

## 9. その他

詳細は、本学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/bukai/keikaku/bukaitop.html>）から、「現地研修集会」をご覧下さい。

## 第50回畑地かんがい研究集会の開催について（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



本年の畑地かんがい研究集会は、「農産物の高付加価値化と畑地かんがい」をメインテーマとして、研究集会ならびに現地研修会を下記のように開催することになりました。

わが国の高い農業技術は、高品質の畑作物・果実の生産をもたらし、農産物の高付加価値化をもたらしてきました。畑地灌漑はその安定生産に寄与する基盤技術となっています。農産物の高付加価値化は高品質の農産物を海外に輸出するという、これまでとは大きく異なる攻めの農業経営を可能にしています。本研究集会では農産物の高品質化に成功した事例や高付加価値化に資する畑地灌漑技術の紹介を通じて、農産物の高付加価値化に貢献する畑地灌漑のあり方を議論します。つきましては、国、地方公共団体、企業、土地改良区などの団体、さらに大学、研究機関などの技術者、行政官、研究者等におかれましては、この研究集会に多数参加されますようご案内申し上げます。

なお、本研究集会は、農業農村工学会畑地整備研究部会および（一社）畑地農業振興会が共催し2年に1回開催しているものです。

### 1. 開催日

研究集会 平成27年10月22日（木）

現地研修会 平成27年10月23日（金）

### 2. 研究集会

(1) 会場：とりぎん文化会館小ホール

（鳥取県鳥取市尚徳町）

(2) 日時：平成27年10月22日（木）10:00～17:30

（予定）

(3) 課題：農産物の高付加価値化と畑地かんがい

①食料・農業・農村基本計画と畑地農業

農林水産省水資源課 増岡宏司

②果樹栽培の高品質化のための水管理（マルドリ方式）

農村工学研究所 島崎昌彦

③近年の畑地かんがい新技術

畑地かんがい資機材メーカー

④鳥取県・江府町奥大山ブルーベリーファームからの報告  
（株）かわばた

⑤鳥取県・北条砂丘からの報告

北条砂丘土地改良区

⑥一筆圃場管理システムを利用した営農管理

鳥取大学農学部 松村一善

⑦総合討論

(注) 上記の講演内容は若干変更の可能性があります。

なお、本研究集会は「農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム」に申請中です。

(4) 情報交換会 18:00~19:30 鳥取市内 (予定)

3. 現地研修会

平成27年10月23日(金) 8:30~17:00 (予定)

- ・鳥取県東部の砂丘地、アリドドーム実験施設(鳥取大学乾燥地研究センター)、北条砂丘、鳥取県中部の小水力発電施設(予定)
- ・鳥取駅集合・解散

4. 参加申込み

後日、学会誌、学会ホームページ、畑地農業振興会ホームページに詳細を掲載いたします。

5. 宿泊

各自でご対応をお願いいたします。

6. 各種問合せ先

畑地整備研究部会事務局

〒680-8553 鳥取市湖山町南4-101

鳥取大学農学部 齊藤忠臣

TEL: 0857-31-5391 FAX: 0857-31-5393

E-mail: tadaomi@muses.tottori-u.ac.jp

畑地農業振興会

宮本幸一

〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-11

TEL: 03-3438-2581 FAX: 03-3438-2583

E-mail: hatasin@muj.biglobe.ne.jp

材料施工研究部会・農村道路研究部会 研究集会・現地研修会の共同開催について (第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



材料施工研究部会と農村道路研究部会では、以下のとおり研究集会および現地研修会を共同開催することといたしましたので、ご案内いたします。多くの皆様の参加をお待ちしております。

1. 期日 平成27年11月5日(木) 研究集会

平成27年11月6日(金) 現地研修会

2. 特定課題 農道の長寿命化に向けた保全対策について

3. 研究集会

(1) 日時: 11月5日(木) 13:00~17:00

(受付開始 12:30)

(2) 会場: 富山県農協会館 8階ホール

〒930-0006 富山市新総曲輪2-21

TEL: 076-445-2051

(3) 発表内容: 特定課題, 自由課題

(4) 参加費: 4,000円/人

4. 現地研修会

(1) 日時: 11月6日(金) 8:30~17:00 (予定)

(2) 研修地: 富山県全域の農道工保全対策事業現場

(詳細は次号以降に掲載予定。研究部会ホームページ <http://www.nodai.ac.jp/eng/original/hyse/JSIDRE/>もご覧ください。)

(3) 参加費: 2,000円/人(昼食代1,000円が別途必要となります。)

5. 申込締切等

発表申込締切 平成27年9月4日(金)

原稿提出締切 平成27年9月25日(金)

参加申込締切 平成27年10月9日(金)

※発表申込書, 原稿フォーマット, 参加申込書は研究部会ホームページ <http://www.nodai.ac.jp/eng/original/hyse/JSIDRE/>よりダウンロードして下さい。

農地保全研究部会第36回研究集会の開催について (第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 開催日

(1) 研究集会 平成27年11月12日(木)

(2) 現地研修会 平成27年11月13日(金)

2. 場所

(1) 研究集会 三島市文化会館(静岡県三島市)

(2) 現地研修会 静岡県西富士エリア(富士宮市)

3. 研究集会テーマ 農地保全・活用の現状と課題(仮)

4. 問合せ先

〒252-0880 神奈川県藤沢市1866

日本大学生物資源科学部生物環境工学科

地域環境保全学研究室 笹田

E-mail: sasada.katsuhiko@nihon-u.ac.jp

TEL&FAX: 0466-84-3836

5. その他

詳細は第2報として本誌8月号に掲載予定。

## 第24回微粒化シンポジウムの開催について

1. テーマ 微粒化研究の新しい挑戦
2. 主催 日本液体微粒化学会・日本エネルギー学会
3. 協賛 農業農村工学会ほか32学協会
4. 趣旨

微粒化技術は、エネルギー機器・粉体製造・医薬・農業・食品・塗装・環境制御など、広く利用されているためその重要性はますます高まっています。本シンポジウムは、多方面からの研究者・技術者が集まり、研究成果や研究開発中に生じた問題点や解決策の報告をとおして、産官学が一体となって微粒化技術の新しい展開を図ることを目的としています。

### 5. 開催要領

日程：平成27年12月17日（木）～18日（金）

場所：神戸大学深江キャンパス 総合学術交流棟

〒658-0022 兵庫県神戸市東灘区深江南町5-1-1

阪神深江駅より徒歩10分（詳細は <http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/map/> をご参照下さい。）

### 6. 内容

一般講演、特別講演、技術懇談会および微粒化関連の機器展示とカタログ展示などを企画しております。

オーガナイズドセッションのテーマとオーガナイザ

- ①航空宇宙における微粒化 大阪大学 林 潤

### ②キャビテーション

鳥取大学 小田哲也

一般講演

- ・噴霧燃焼、噴霧冷却、表面処理等の工業技術における微粒化
- ・コロイド、エマルジョン等の化学工業における微粒化
- ・液体の分裂機構、噴霧の挙動、二相流等の流体力学的解明と微粒化
- ・液滴の蒸発・混合気形成過程、混相流、マイクロバブル
- ・その他微粒化関連分野

### 7. 参加申込み

農業農村工学会（協賛）の会員は主催学会「会員」の資格で参加できます。参加申込み等の詳細は微粒化シンポジウムWebサイト (<http://www.ilass-japan.gr.jp>) をご参照下さい。

### 8. 参加担当事務局

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1

大阪大学工学部機械工学科

「第24回微粒化シンポジウム」参加担当幹事 林 潤

TEL：06-6879-7253

E-mail：j.hayashi@mech.eng.osaka-u.ac.jp

## 農業農村整備事業における 景観配慮の手引き



### 目次

- 第1章 手引きの目的
- 第2章 農村景観の特徴と農業農村整備の展開方向
- 第3章 農村景観の保全、形成の基本的な考え方
- 第4章 景観配慮対策の進め方
- 第5章 調査
- 第6章 計画
- 第7章 設計、施工及び維持管理
- 用語集
- 引用文献・参考文献
- 検討の経緯
- 参考資料

A4判 163ページ  
定価 3,291円  
(税込・送料学会負担)

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4  
公益社団法人 農業農村工学会  
☎ 03-3436-3418 FAX 3435-8494